2014年
(平成26年)
2月9日
日曜日
発行所
岐阜新聞社
岐阜市今小町10番地
〒500-8577(専用番号)
電話058-264-1151(代)
©岐阜新聞社 2014

第3種郵便物認可

サンデーコラム

中村正・秋田屋本店社長

岐阜から元気を発信

今世紀に入って「スローフード」を掲げた「岐阜市スローライフ」という言葉が多く聞かれるようになった。元々はイタリアのブラという小さな田舎町から起こったスローフード運動に端を発し、スローライフへと拡がったものである。現代のスピード社会に対して生活をより豊かにするための生き方を模索し、じっくりと本物を味わうことが提唱されてきた。

岐阜市では11年前「スローライフシティーぎふ」を掲げた「岐阜市スローライフ推進実行委員会」が発足し、会長職を私が拝命することになった。実行委員会ではスローフードコンテストの開催やスローツーリズムのイベント、あかり灯ウォーク開催等の事業を実施したが、その中の一つとして落語があった。

最近のテレビはバラエティー番組が全盛で直ぐに笑いが取れるものばかりの様相であるが、それに対して落語は「おち」が最後にくるなどスローな笑いの代表と云える。そのような背景のなかで細江茂光岐阜市長の提案もあり、2004年2月に岐阜出身で落語の祖といわれる安楽庵策伝和尚の名を冠した全日本学生落語選手権「策伝大賞」がスタートした。

全日本学生落語選手権「策伝大賞」

なかむら・ただし　1951年、岐阜市生まれ。業界団体の県製薬協会長、みつばちの家理事長、県養蜂組合連合会長を務める。また県経済同友会代表幹事、岐阜南法人会副会長、岐阜商工会議所常議員、県フェンシング協会長、岐阜市体育協会副会長、岐阜北高校同窓会長を務める。

第1回の参加大学数は29校、出場人数は76人で大変素晴らしい盛り上がった大会となった。昨年が最後にくるなどスローな笑いの代表と云える。そのような背景のなかで細江茂光岐阜市長の提案もあり、2004年2月に岐阜出身で落語の祖といわれる安楽庵策伝和尚の名を冠した全日本学生落語選手権「策伝大賞」がスタートした。

実行委員会、NHK岐阜放送局で、実行委員会の会長は初代が葛谷昌之元岐阜薬科大学学長、次が水谷雄二文溪堂特別顧問、第6回から現在まで私が務めさせていただいている。

この10年間の発展は様々な要因が相乗効果を発揮してのことであるが、特に落語界の東西の大看板である桂文枝師匠と立川志の輔師匠の参画と絶大なる協力の賜物と云える。両師匠共、学生時代に大学落語で活躍され、学生達が発表する場の必要性を強く思われ、策伝大賞に大きな期待を持ち続けていただいている。

いよいよ今年も長良川国際会議場を舞台に今月22日(土)予選会、23日(日)決勝大会が開催される。今回は50校、320人のエントリーがあった。決勝翌日の24日(月)には両師匠の好意で「春待ち二人会」が催され、素晴らしい落語が聴ける機会となる。岐阜を落語一色に染め、岐阜から全国に発信される3日間の一大イベントを、11回目の今年も大成功を収められるよう実行委員会会長として全力で努める所存である。